

◆本の紹介◆

「キリン解剖記」

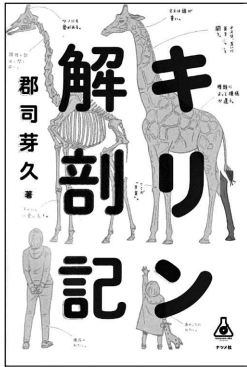
著者：郡司芽久

2019年8月発行，B6判 215頁。

1,200円（税別），ナツメ社。

ISBN-10：4816366792

ISBN-13：978-4816366796



著者は解剖学・形態学を専門とする若手研究者であり，キリンの研究によって学位をとり，世界一キリンを解剖している（30頭）とのことである。キリンを愛する著者のキリン研究の難しさ，奮闘記，そして面白さを語った本である。

本書は第1章キリンを解剖するには，第2章キリン研究者への道，第3章キリンの「解剖」，第4章キリンの「何」を研究するのか？，第5章第一胸椎を動かす筋肉を探して，第6章胸椎なのに動くのか？，第7章キリンの8番目の「首の骨」，第8章キリンから広がる世界，からの8章で構成されている。現代の生物学や解剖学の研究手法において，分子生物学が主流である。しかし，著者はあえて古典的な解剖学の手法で

キリンを研究する道を選んでいる，なぜそのようなになったのか，また研究テーマ（キリンの特殊な第一胸椎の機能）をどのようにして選んだか，10年に及ぶキリンの解剖一筋の歴史が興味深く述べられている。キリンの第1胸椎は胸椎だけど動くという仮説のもとに機能解剖学的に研究していく過程が読者をひきつける。

本書の各章の終わりには興味を引くコラムが掲載されている。その中のコラムの一つに「高血圧の謎」がある。キリンは地球上で最も高血圧な動物であり，キリンの最高血圧は300 mmHgにも達するとのデータを紹介されている。キリンが頭を下げた時に頭部の血圧が急上昇し（150→220 mmHg），その後下げた頭を再び上げると頭部の血圧が急減少する（150→50 mmHg）という。一方ヒトにおいて，現代の医学では最高血圧が130 mmHg以上は高血圧とされ，高血圧はいろいろな病気，例えば，脳出血や脳梗塞などを引き起こす原因になると言われている。2019年の統計では，日本で治療を受けている高血圧の総患者数は997,000人である。（<http://www.seikatsusyukanbyo.com/statistics/2019/009977.php>）。同じ哺乳類でありながら，ヒトに比較して，なぜキリンが脳の病気にならないのか不思議である。

本書の終わりには，博物館に根付く「無目的，無制限，無計画」という3無について，著者の見解が述べられている。著者は標本を蓄積して，未来に残していき，博物館標本を100年後に届ける仕事の一翼を担っていきたいという。現代社会において，化石の研究でもそうであるが，「何の役に立つのか」を問われ続け，効率化が叫ばれ，短期間での研究成果を求められている。このような時代で著者の見解は大変貴重だと思われる。化石研の会員の方々に一読をお勧めする。

（三島弘幸）